

シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
国 語	現 代 の 国 語	2	1	/	全

教科書	『現代の国語』（筑摩書房） 『言語文化』（筑摩書房）	副教材	『読解を深める 現代文単語』（桐原書店） 『上級入試漢字・語彙』（桐原書店）ほか
-----	-------------------------------	-----	---

科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりのなかで伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 また、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度をもつようにする。
-------	---

科目の概要	中学校までの国語における学習内容を前提として、その内容を反復かつ発展しながら言語技術の定着を図る科目である。読むことについては、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を題材とする。話すこと・聞くこと、書くことについては、授業での言語活動を通じて思考を深め、表現力を磨く取り組みを行う。
-------	---

観点別評価			
3 観点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ⑥「受信・発信力」 ⑨「自己管理能力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	②「課題対応力」 ⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	○言葉の特徴や使い方に関する事項を身につけたか。 ○話や文章に含まれている情報の扱い方を身につけたか。 ○現代日本の言語文化に関して、特に読書の意義と効用について理解を深めたか。	○話すこと・聞くことに関して、情報を集め、伝える内容を検討し、考えが伝わり、理解を得られるよう工夫していたか。 ○書くことに関して、適切な題材を決め、情報の妥当性・信頼性を吟味しつつ構成や展開、表現等を題材に合わせて工夫していたか。 ○読むことに関して、要旨や要点を把握し深い思考につないでいたか。	○自分の考えを伝えたり、他者の多様な考えを引き出したりしながら、議論や討論を進められたか。 ○自ら収集したり整理したりした資料や論拠にもとづいて、発表したり、他者の発表や意見を批評したりすることができたか。 ○異なる形式で提示された複数の情報を処理したり、その情報を別の形式に再構成して表現したりできたか。
評 価 の 方 法	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○授業内・外での学習活動等 ○課題への取り組み・提出状況 以上をもとに、学期末・学年末の平常点で評価する。

シラバス

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	○評論文への招待 内田樹「ことばとは何か」 ○ことばで伝える思いと考え 松村圭一郎「贈り物と商品の違い」 ○日本大学附属高等学校等文芸コンクール・読書感想文の部 応募作の制作・執筆 ○漢字・語彙の学習 【1学期 中間試験】 5月19日～22日	◇言語に関する基本的認識を培い、言語観への理解を深める。 ◇具体例や比喩のはたらきを理解し、抽象的な概念を読みとる力を身につける。 ◇日常的な事象をを手がかりに、世界を構築する枠組みについて理解を深める。
	○「話し合い」から「議論」へ① 芥川龍之介『羅生門』を前提に ○日本大学附属高等学校等文芸コンクール・詩の部 小説の部 応募作の制作・執筆準備 ○漢字・語彙の学習 【1学期 期末試験】 7月1日～7日	◇自身の意見を示しつつ、他者の意見を理解し、対話を進めることを通じて、議論の仕方を学ぶ。 ◇論理的思考と議論を通じて、他者への想像力を養いつつ、実社会で必要とされる言語技術を習得する。
2 学 期	○「話し合い」から「議論」へ② 宇野重規「〈私〉時代のデモクラシー」 ○「根拠」から「主張」へ 若林幹夫「魔術化する科学技術」 ○表現のみがき方① 【実践】宣伝のことば ○漢字・語彙の学習 【2学期 中間試験】 10月14日～17日	◇自身の意見を示しつつ、他者の意見を理解し、対話を進めることを通じて、議論の仕方を学ぶ。 ◇近代社会の構造を学び、現代社会の問題への関心を深めることで、自身と自身を取り巻く世界について考え、表現する言葉を獲得する。 ◇接続詞のはたらきや対比的構造に注意しながら、論理的文章の読解になれる。
	○伝えること、受け止めること 伊藤亜沙「記憶する体」 ○表現のみがき方② 山田登世子「贅沢の条件」 ○漢字・語彙の学習 【2学期 期末試験】 12月1日～5日	◇自身とは異なる立場を持つ他者の存在への認識を深めるとともに、対話や議論の回路を開く仕方を学ぶ。 ◇自身の思いや考えを書き表したものを、よりよく磨きあげる手法を学ぶ。
3 学 期	○主張の論理的な伝え方 國分功一郎「来るべき民主主義」 ○複眼的な視点 西谷修「名づけと所有」 ○漢字・語彙の学習 【3学期 学年末試験】 3月4日～9日	◇先人たちの思索をふまえて、新たな世界観を構築する言語的な術を学ぶ。 ◇自身の考えを裏づける情報を含みながら、主張を展開する仕方を学ぶ。 ◇自己を相対化し、複眼的な視点から世界を理解するのに必要な言語技術を習得する。